

「自社ブランド製品」中心に

プラ業界のバイオニア・天昇電気がエヌプラスに出展 集めた注目雨水貯留浸透施設の新製品など

天昇電気工業㈱は、9月26～28日、東京ビッグサイトで開催されたエヌプラス2018に自社ブランド製品を中心に展示した。今回は、高度な金型設計から成形・加工、最終アッセンブリまでワンストップでできるプラスチック成形加工の総合メーカーで、プラスチック射出成形の自社製品の開発から受託加工まで幅広く行っている。

今年で創業82周年を迎える同社は、長い歴史の中で様々な自社製品を世に生み出してきた。「テンバコ」・「デンタル」といった樹脂製の箱から医療器具、更にはロボットまで、プラスチック業界のバイオニアとして幅広い分野に挑んできた。今、天昇電気は新たな時代に挑戦しようとしている。

今回の出展では特に力を注いでいる自社ブランドの雨水貯留浸透施設新製品である「デンレイン・スクラム」を紹介し、多くの来場者の注目を集めた。同製品は従来の雨水貯留浸透施設の組み方と異なる独自の工法を採用しており、「デンレイン・スクラム」3次元表面加飾技術や水圧転写など、独自の技術として、多種多様なものを華やかに飾る「華飾」をテーマとして、プラスチック業界の老舗として培ってきた様々な知見と技能を最大限に発揮し、TENSHOにしかできないものを形にする。天昇電気の躍進は止まらない。



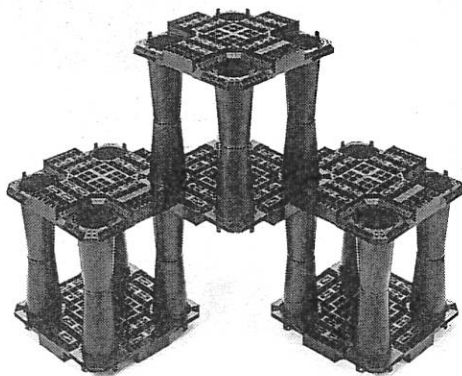
自社ブランド製品を中心に展示した天昇電気の小間

工法」として2018年2月に公益社団法人雨水貯留浸透技術協会より技術評価認定を受けた。1㎡当たり約96%を超える業界トップクラスの空隙率を誇り、簡単に施工ができることを特長としている。近年多発している集中豪雨の際に河川や下水処理施設の処理能力を超えた雨水の流出を防止する方法として需要が高まっている。

3次元表面加飾技術や水圧転写など

華飾技術も紹介

また、3次元表面加飾技術(TOM工法)や水圧転写(リアルプリント)といった華飾技術も紹介し、多くの来場者の目を引いた。一般的な加飾とは異なり、「彩り」とともに「華やか



注目を集めた雨水貯留浸透施設の新製品「デンレイ・スクラム」